

競技上の確認事項

大会競技委員長

1. 競技規則の確認

平成30年度 公益財団法人 日本バレーボール協会の定める6人制競技規則による。
但し、別に定める小学生バレーボール競技規則を採用する。

2. 競技方法について

男子の部10チーム、女子の部16チームによる全試合3セットマッチのトーナメント方式で行う。

3. チーム編成について

- (1) 競技者及びチームスタッフを変更する場合は所定の用紙を使用し、開会式開始までに競技委員長へ提出する。
- (2) 提出されたエントリー用紙は、変更届の提出がない限り全試合に適用し、途中変更は認められない。
- (3) 試合中、競技に入場できるのは、当日エントリーされた者のみとする。

4. 試合球について

男子：モルテン 女子：ミカサ

5. 競技コートについて

- (1) 守山スポーツセンターは、第1競技場の南側からA・B・Cコートとする。
- (2) 第2競技場はDコートとする。

6. 服装について

- (1) 選手のユニフォームは（ジャージ、パンツ、ソックス）は、形状、色、及びデザインをチームで統一する。
- (2) ユニフォームからはみ出すスパッツ、アンダーウェア等の着用は禁止する。
※冬季、暖房施設のない体育館での試合においては、選手の健康を考慮し、着用を許可する場合がある。（守山SCは暖房あり）
- (3) 開会式・表彰式・閉会式への参加と服装については、統一された服装とする。但し、ベンチコート等の厚手の防寒具の着用は禁止する。

7. 試合進行について

- (1) 試合開始時刻は、プログラムに記載してある通り第1試合のみ設定し、第2試合以降は追い込みで行う。
- (2) 第2試合目以降は、前の試合が終了してから概ね5分後にプロトコールに入る。
- (3) 同一チームの試合が連続する場合は、前の試合が終了してから最大15分後にプロトコールに入る。
- (4) 試合の終了したチームは、速やかにベンチを空ける。
- (5) 試合終了後、チーム監督と主審・副審はフェアプレーの精神で「握手」を交わす。
- (6) 次の試合の審判にあたるチームは速やかに準備する。
- (7) 試合間の練習は、隣接コートの試合に支障をきたさない範囲で認める。ただし、ネットを使用しての練習は禁止する。
- (8) 空きコートの使用は、隣接コートの運営に支障がない場合は許可する。ただし、隣接コートの運営に支障があるときは、柔軟体操かボールを使用するならオーバーハンドかアンダーハンドパスに留める。

(9) 試合進行状況により、試合順やコートを変更する場合がある。

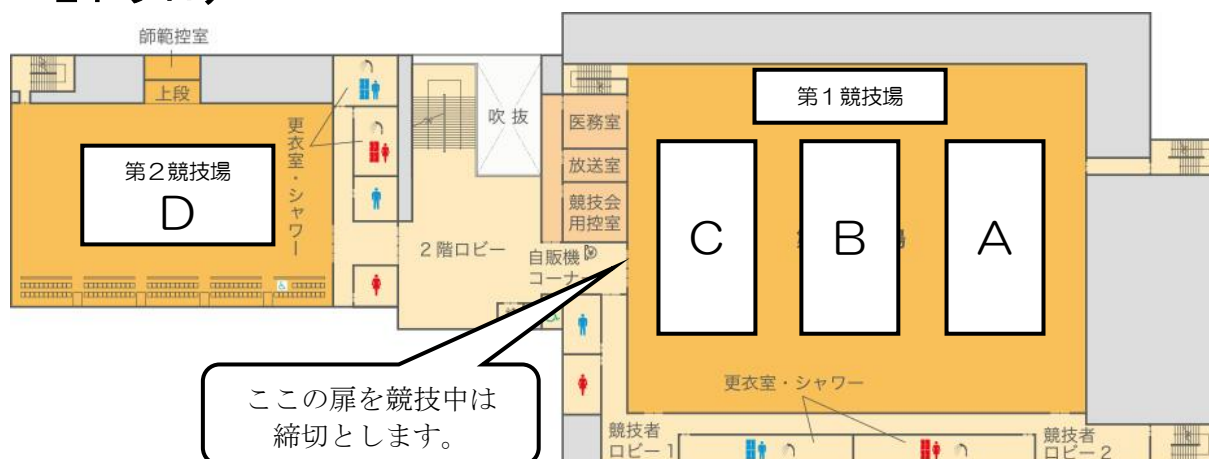
8. 試合中について

- (1) 監督、コーチ、マネージャーは、子どもの健全育成を目指す指導者としての自覚をもち、不適切な行為そのものはもちろん、誤解を招くような行為も厳に慎む。
- (2) 監督は、ボールデッド間に、立ち上がってコート内の選手に必要な指示を与えることができる。このことは、監督がみだりに立ち上がる行為を容認するものではない。また、ベンチスタッフが自然発生的に喜びの表現として偶発的に立ち上がる行為は許容範囲であるが、監督以外が、毎回のように立ち上がったり、数歩前に出たりする行為は認められない。さらに、監督が、選手とハイタッチをしたり、飛び跳ねたりする行為及び、相手を威嚇する行為も認められない。
- (3) うちわ等については、セット間及びタイムアウト中のクールダウンに使用する場合のみベンチへの持ち込みを認める。
- (4) マスコットのぬいぐるみ、千羽鶴等) やメガホンの持ち込みを禁止する。
- (5) 水分を補給する場合は、ベンチ前で行い、水筒やペットボトルを直接床に置かない。
- (6) 携帯電話やトランシーバー、タブレット等の電子機器の使用は禁止する。

9. 応援マナーについて

- (1) 応援マナーの厳守は、監督の責任において徹底させる。
- (2) 横断幕を掲出する際は、観覧者の視界を遮ることがないように、手摺の下部にひも等を使用する（ガムテープ等粘着性のあるテープの使用は禁止）
- (3) のぼりも横断幕に準じ、観覧席の最後部にひも等を使用して立てる。
- (4) 鳴り物の使用は禁止する。
- (5) いかなる場合であっても、施設及び付帯の設備等を叩きながらの応援は禁止する。
- (6) カメラなどのフラッシュ撮影は禁止する。

2Fフロア



この扉を競技中は
締切とします。

フロアへの入場について

会場図下側の扉もしくは、観覧席からつながる階段をご利用ください。